

目次

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 計画策定の背景と経緯 | 8. 先行整備計画 |
| 2. 計画地の概要 | 9. 基本計画図等 |
| 3. 整備の基本方針 | 10. 制限表面図 |
| 4. コアゾーンに導入する施設 | 11. 周辺道路の課題検証 |
| 5. 造成計画 | 12. 整備スケジュール、概算事業費 |
| 6. 施設配置計画 | 13. 平常時の利用検討 |
| 7. 支援ゾーンの整備方針 | 14. 当面の主な検討事項 |

1. 計画策定の背景と経緯

■ 背景と経緯

- 近年、災害が激甚化・頻発化しているとともに、今後、奈良盆地東縁断層帯地震や南海トラフ地震といった大規模災害の発生が懸念されている。
- 大規模災害発生時には、県や被災市町村のみでは十分な応急対策活動が困難であることが予想されるため、県が全国的な応援を迅速かつ円滑に受け入れ、被災市町村や被災者の支援につなげることが重要となる。
- このため、令和6年4月に外部有識者から構成される災害応急対策(防災拠点)検討部会を設置し、大規模災害に備えた広域的な防災体制のあり方や広域防災拠点における災害応急対策等について議論を進め、令和7年3月に災害応急対策(防災拠点)基本構想を策定した。
- また、消防学校が持つ機能をより効果的に発揮できる整備方針を早急に決定することが基本構想に位置付けられ、消防学校を五條県有地に移転し、南部中核拠点と一体的に整備することを決定した。

■ 整備基本計画策定の趣旨

- 基本構想において示された県南部の核となる南部中核拠点のあり方に基づき、機能、施設規模、配置計画等に関する基本的な考え方をとりまとめるとともに、その整備について具現化するもの。

2. 1. 計画地の概要

■ 計画地の諸元

所在地: 奈良県五條市黒駒町762番外

敷地面積: 約64ha(東エリア: 約45ha+西エリア: 約19ha)

- 奈良県の南北方向のほぼ中心に位置
- 県内の大部分が計画地から概ね50km(ヘリで約15分)圏内
- 計画地内は北東から南西方向に標高が高く、最大で約70mの高低差
- 谷を挟んで東エリアと西エリアの2つのエリアで構成
- 両エリアを橋梁(設計荷重: T-4)が結ぶ
- 京奈和自動車道、国道24号、国道168号に近接
- 東エリアへの既設進入路(市道)が敷地の北東端に接続

■ 位置図(広域)



■ 位置図



《ライフラインの状況》
 電気: 旧ゴルフ場への供給あり ガス: 都市ガス供給エリア外
 水道: 旧ゴルフ場への供給あり 下水道: 下水道事業区域外



2. 2. 計画地の概要

■ 関係法令

- 計画地は、都市計画区域(市街化調整区域)、地域森林計画対象民有林、宅地造成等工事規制区域が含まれている。なお、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、砂防三法指定区域、保安林、農用地は存在しない。
- 引き続き、関係機関と協議・調整を進め、各種法令の規制や技術基準等を踏まえて、整備を実施

■ 計画地周辺の流域

- 計画地周辺は奈良県と和歌山県にまたがる紀の川(吉野川)流域
- 計画地周辺は大きく6つの流域から構成され、計画地はそのうち4つの流域に属している
- 整備にあたっては流域を変えないことを基本方針とする

■ 流域図

※地形図やこれまでの調査、地元関係者へのヒアリングから整理

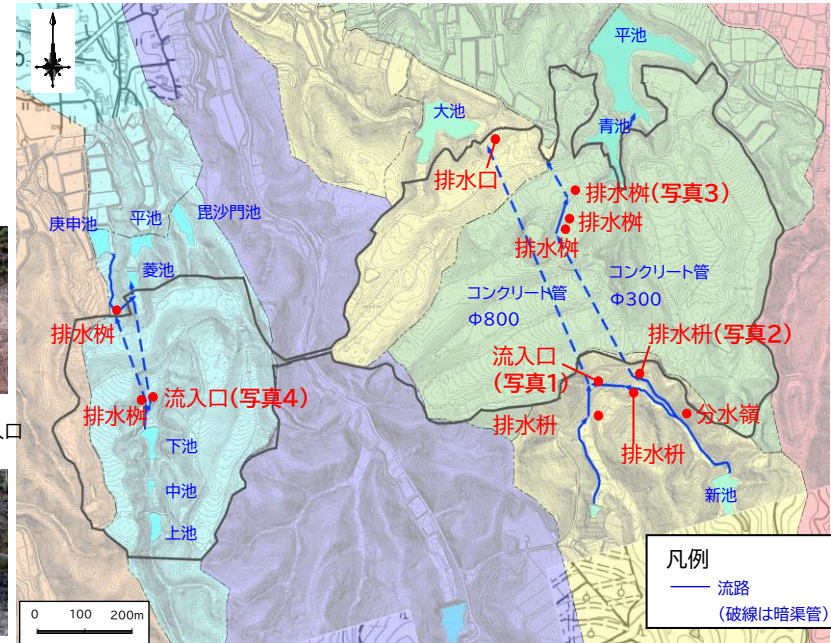


写真1
東エリア内の横断管の流入口



写真2
東エリア内の横断管の流入口(排水樹)



写真3
東エリア内の水路、排水柵



写真4
西エリア内の横断管の流入口

3. 整備の基本方針

■ コアゾーンと支援ゾーンの考え方

- コアゾーン
 - 南部中核拠点に必要な防災機能と消防学校が立地する南部中核拠点の核となる区域
 - コアゾーンに設ける施設(ベースキャンプ・駐車場等を含む)は造成された平場に設ける
- 支援ゾーン
 - コアゾーンを除く部分のうち、コース跡地など比較的平坦な区域
 - 大規模災害時等に近隣府県等の応援部隊の受入に活用するベースキャンプ・駐車場等

■ 南部中核拠点の段階的な整備

第1段階: 先行整備

ヘリパッドと通路を先行整備し、早期に防災機能の効果発現を図る

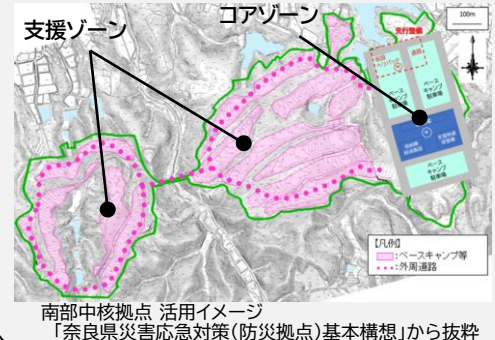
第2段階: コアゾーンの整備

南部中核拠点の核となるコアゾーンとして、防災拠点となる施設(約9.49ha)および消防学校(約4.4ha)の整備を進め、防災機能を向上させる

第3段階: 支援ゾーンの整備

近隣府県等の応援部隊を受け入れるベースキャンプと外周道路等を整備して更に防災機能を向上させる

《これまでの検討》



南部中核拠点 活用イメージ
 「奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想」から抜粋

4. コアゾーンに導入する施設

施設名	施設概要	面積	
ベースキャンプ	消防、警察、自衛隊等の応援部隊が部隊の指揮、宿営、燃料補給等を行うための施設	7.7ha	■ ヘリパッド・駐機場 (イメージ) 奈良県ヘリポート  ■ 消防学校施設 (イメージ) 教育管理施設  屋外訓練場  【出典】千葉県HP、大阪府HP
支援物資保管庫	国等からの支援物資を受け入れ、被災地へ送り出すための施設	1,600㎡	
ヘリパッド 駐機場	防災関係機関のヘリコプターが離着陸するための施設(場外離着陸場)	1.5ha	
格納庫	ヘリコプターの整備等を行うための施設 発災時にはSCUや合同調整所としての活用も想定	500㎡	
給油施設	防災関係機関のヘリコプターの燃料を給油するための施設	800㎡	
消防学校※	消防学校組織法第51条に基づく、消防職員および消防団員の教育訓練機関	約4.4ha (想定)	

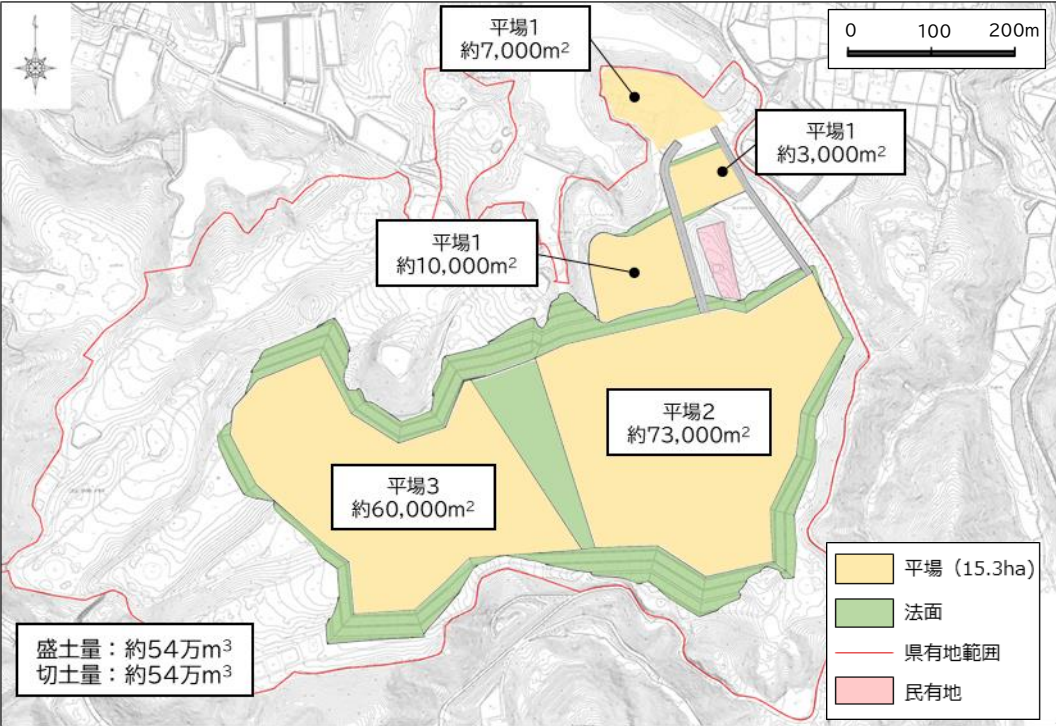
※ 本県消防学校に必要な機能や施設規模・配置は現在検討中

5. 造成計画

■ 基本的な考え方

- コアゾーン約15ha(防災拠点:9.49ha+消防学校:4.4ha)は県有地東エリアの同一流域内を造成した平場に設ける。
- 平場1は現地地形を活かし、必要最小限の切土・盛土を実施、平場2と平場3は切土・盛土によりそれぞれ一団の土地を造成する。
- 造成は切土・盛土の高さを抑えつつ、切土量と盛土量のバランスを図る。

■ 造成計画図



6. 施設配置計画

- 施設規模や施設管理を考慮のうえ、防災拠点や消防学校は一定規模を確保できる平場2を中心に配置
- 消防学校の平常時の利便性やヘリの北側住宅地への騒音の影響を踏まえ消防学校を入口に近い場所に配置

7. 支援ゾーンの整備方針

- ベースキャンプ等の利用においては、コース跡地のうち勾配8%以下の区域を想定する。
- 今後、平常時の活用の検討を踏まえて、支援ゾーンおよび外周道路の整備方針も検討が必要

8. 先行整備計画

■ 整備方針

- コース跡地のグリーン部分や管理用道路を最大限に活用し、大幅な造成を抑えて、ヘリパッド及び通路を整備することにより、令和7年度中に工事着手し、早期に防災拠点としての効果を発現させる。
- クラブハウス跡地や平坦なコース部の一部を、ベースキャンプ、駐車場に活用する。

■ 整備内容

ヘリパッド	約1,400㎡(37.5m×37.5m) ※ グリーン部分を活用して整備
通路	約180m ※ 管理用道路を活用して整備
ベースキャンプ 駐車場	約1.1ha ※ コース部分・クラブハウス跡地を活用

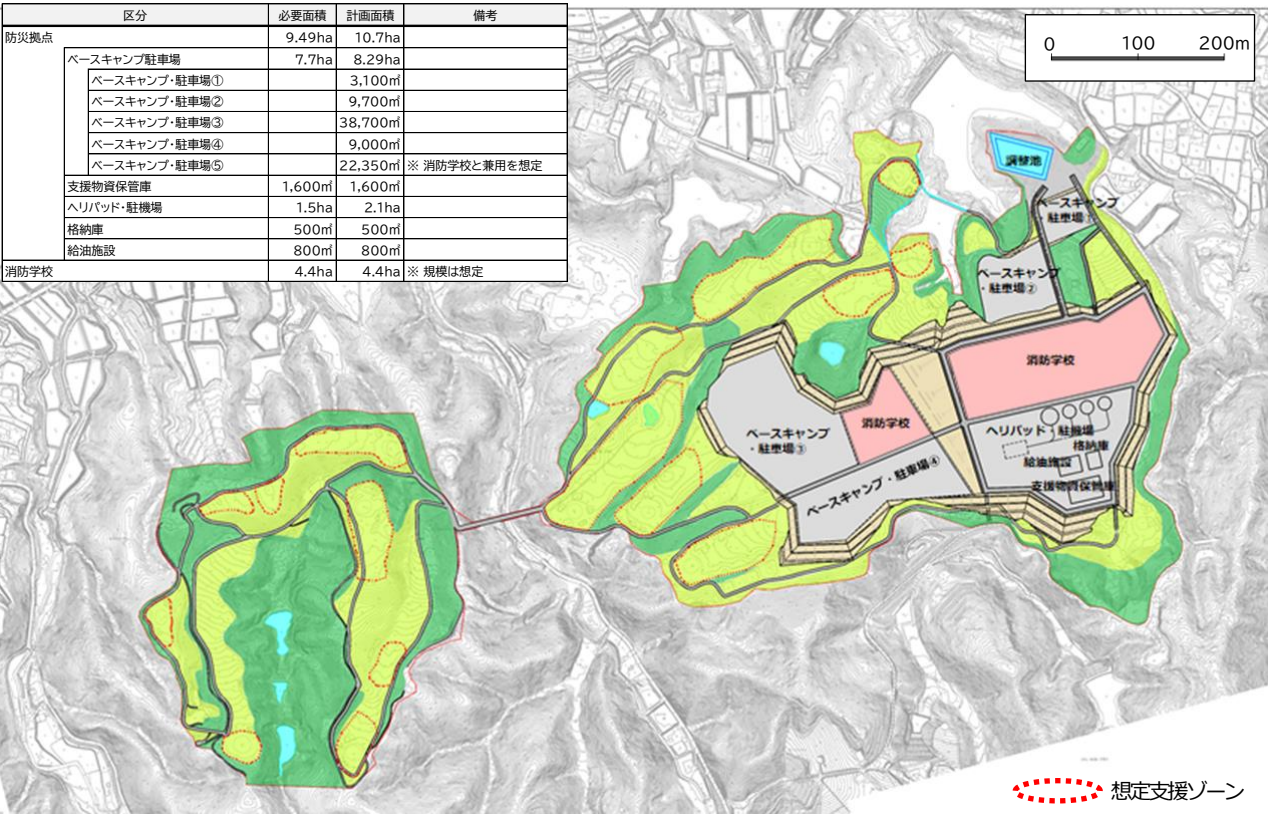
■ 施設配置イメージ図



9.1. 基本計画図等

■ 基本計画図

区分	必要面積	計画面積	備考
防災拠点	9.49ha	10.7ha	
ベースキャンプ駐車場	7.7ha	8.29ha	
ベースキャンプ・駐車場①		3,100㎡	
ベースキャンプ・駐車場②		9,700㎡	
ベースキャンプ・駐車場③		38,700㎡	
ベースキャンプ・駐車場④		9,000㎡	
ベースキャンプ・駐車場⑤		22,350㎡	※ 消防学校と兼用を想定
支援物資保管庫	1,600㎡	1,600㎡	
ヘリパッド・駐機場	1.5ha	2.1ha	
格納庫	500㎡	500㎡	
給油施設	800㎡	800㎡	
消防学校	4.4ha	4.4ha	※ 規模は想定



9.2. 基本計画図等

■ 整備イメージ

第1段階：先行整備



第2段階：コアゾーン



第3段階：支援ゾーン

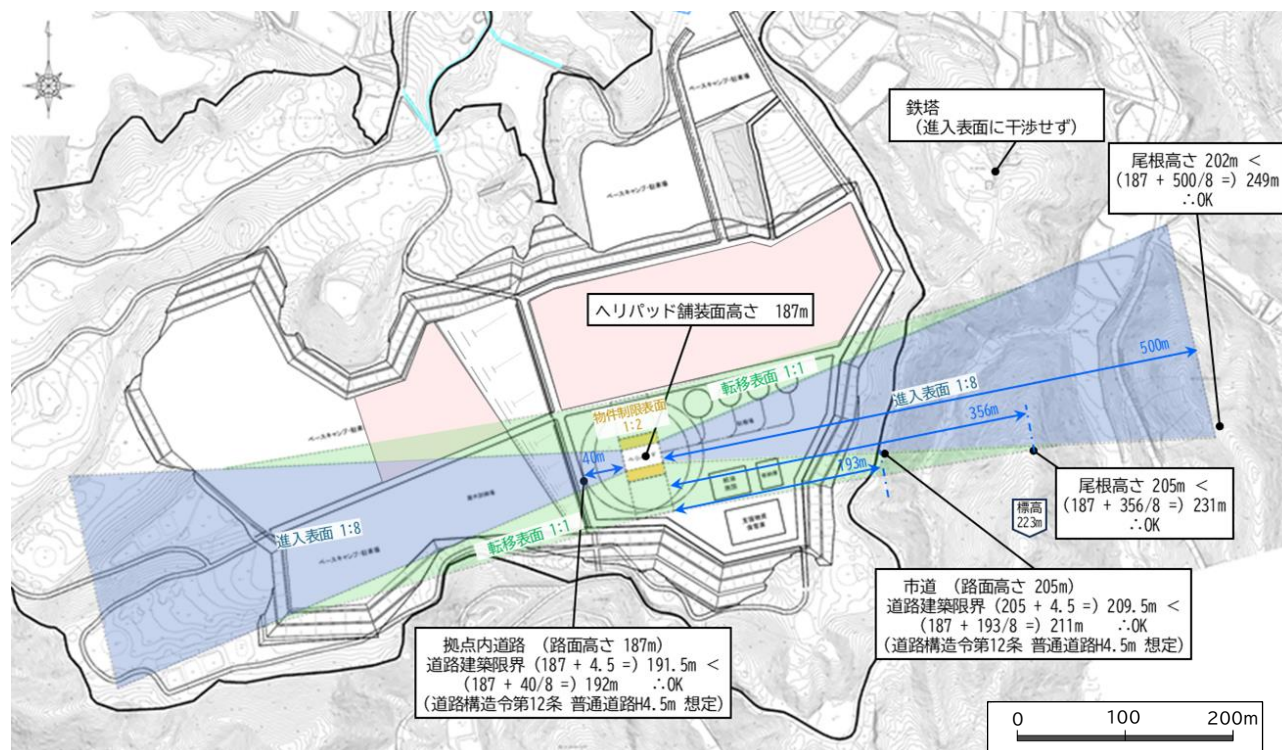


防災拠点



10. 制限表面図

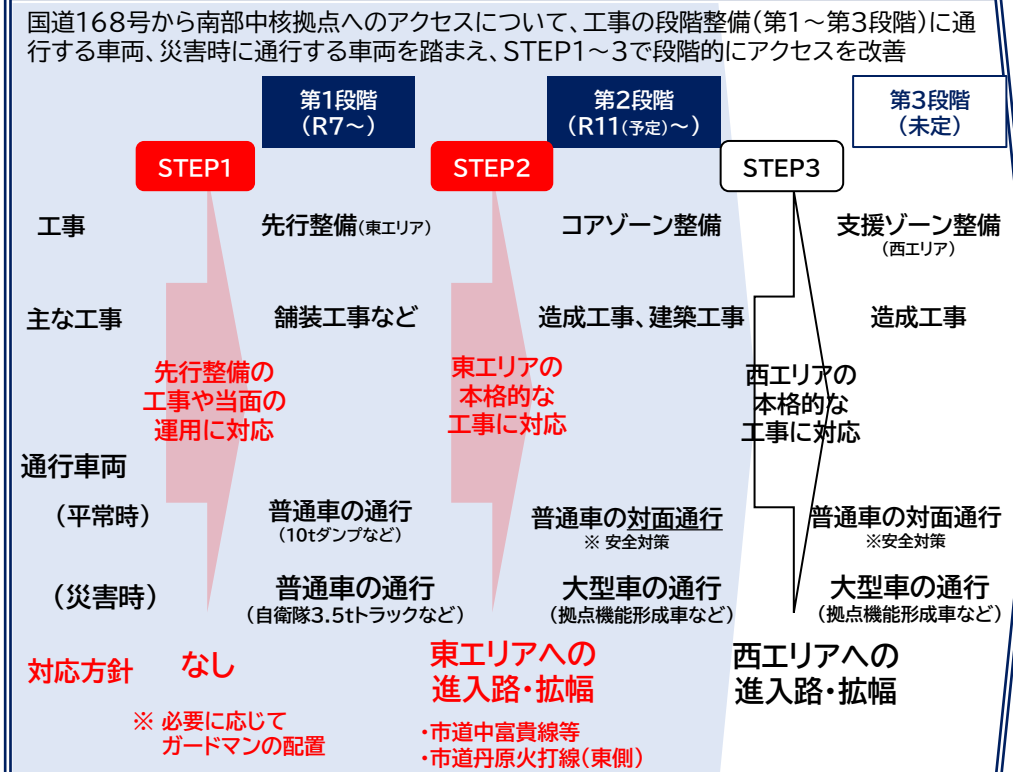
- 県有地北側の市街地および南側の山地を避けるため、進入方面は東西方向で設定する。
- 進入区域内に制限表面に抵触する物件はない。



11. 周辺道路の課題検証

■ 検証結果(アクセスの改善)

- 当面、第2段階(コアゾーン整備)のR11年度の工事着手に向けてSTEP2の完了を目指す。

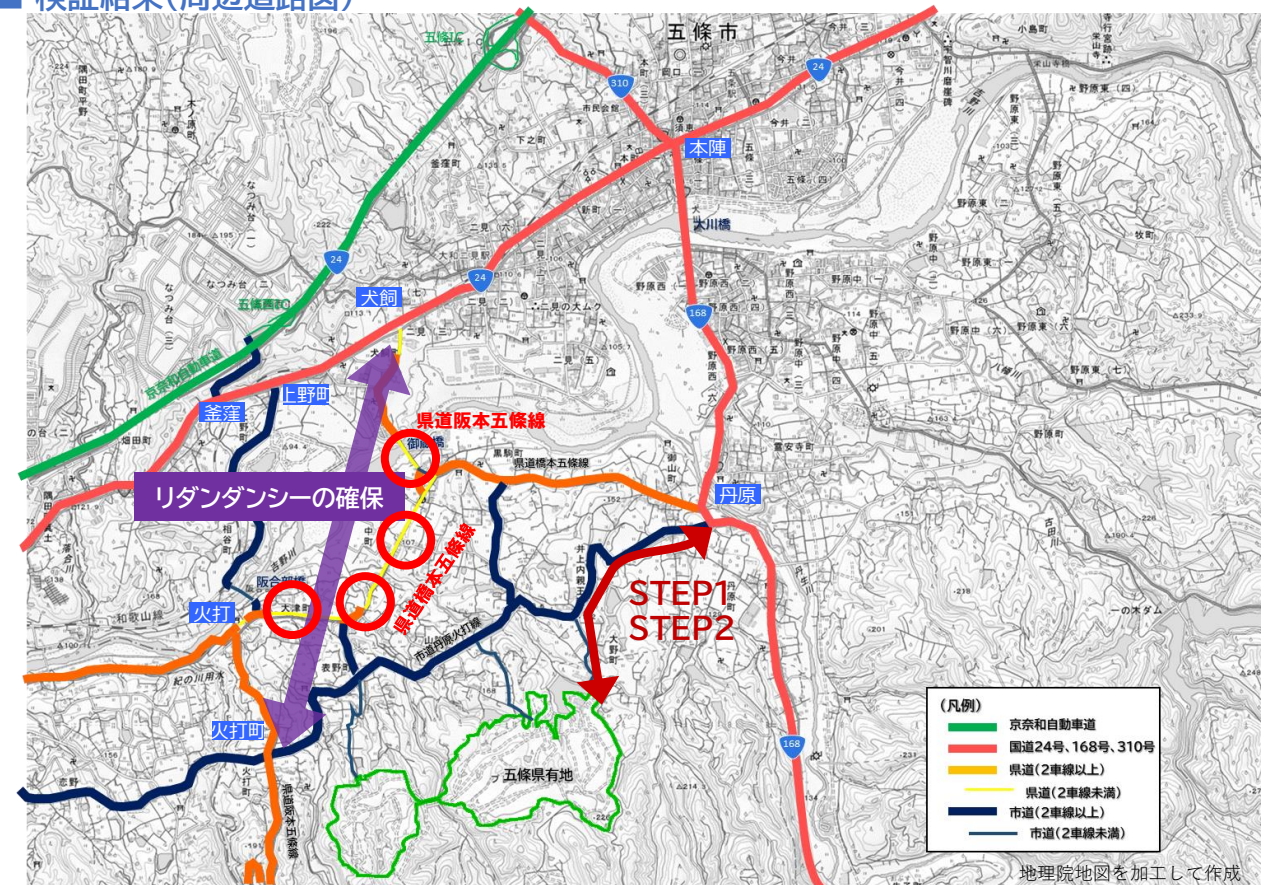


将来的に

リダンダンシーの確保

災害時の防災拠点の運用のため、国道24号から防災拠点への複数ルートによるリダンダンシーを確保

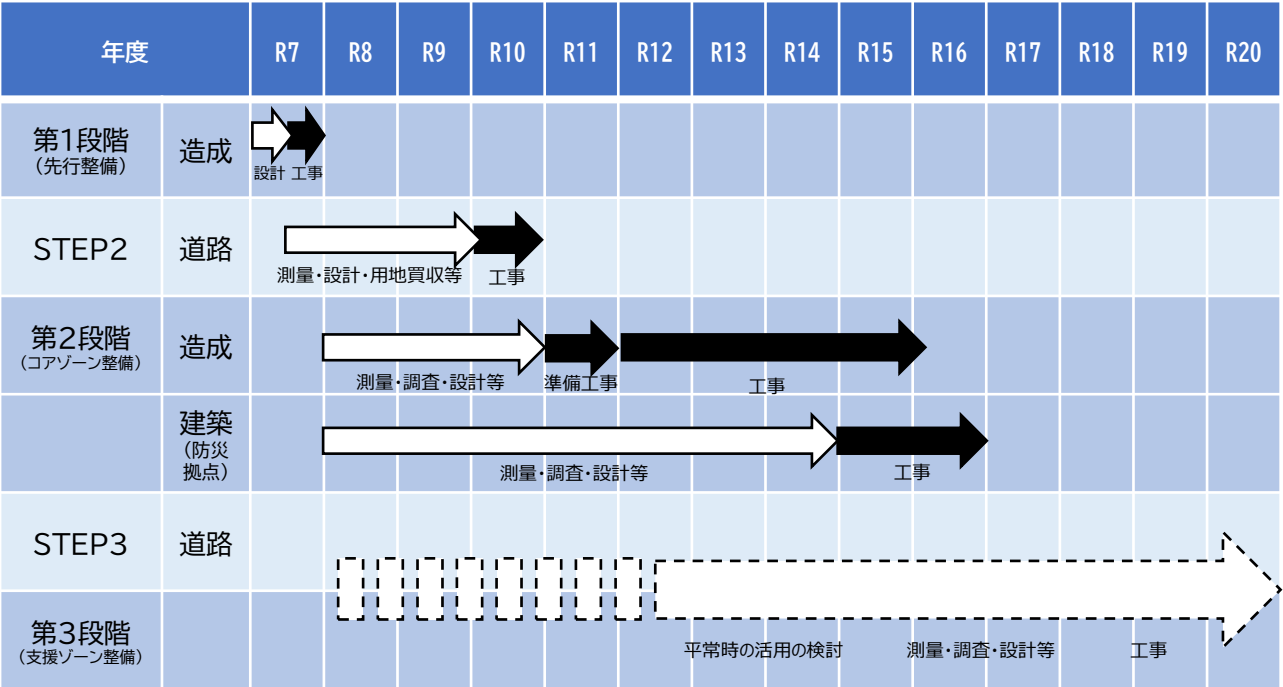
■ 検証結果(周辺道路図)



12. 整備スケジュール・概算事業費

■ 整備スケジュール

- 当面、第1段階(先行整備)のR7年度中、第2段階(コアゾーン整備)のR16年度の完了を目指す。
- 消防学校に必要な機能や施設規模・配置の検討を行い、改めて全体整備スケジュールを検討する。
- STEP3および第3段階は、支援ゾーンにおける平常時の活用の検討を踏まえて、整備方針を検討する予定。



※ 用地買収の状況によりスケジュールが変動する可能性あり

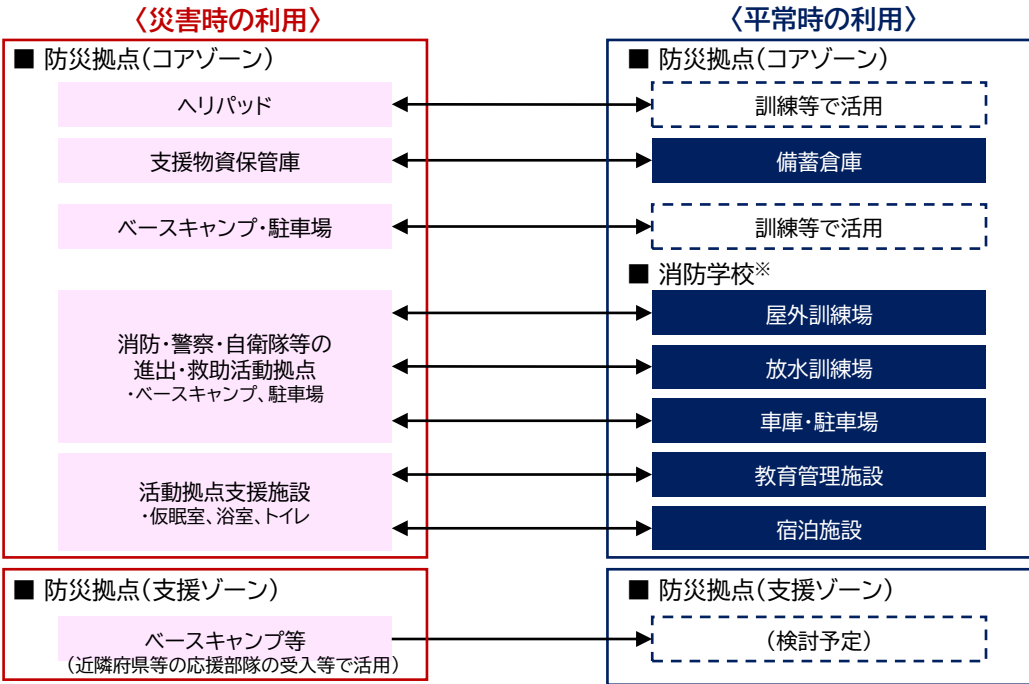
■ 概算事業費

- 防災拠点の概算事業費は約50億円(これまでの用地費は除く)
- 消防学校に必要な機能・規模、施設配置の検討を行い、改めて概算事業費を算出する。
- STEP3および第3段階は、支援ゾーンにおける平常時の活用の検討を踏まえて、整備方針を検討する予定。

区分		事業費 (百万円)	備考
第1段階	造成	30	土工、法面工、排水工、舗装工、保安工等
STEP2	道路	300	市道丹原火打線、市道中富貴線の部分改良等
第2段階	造成	3,970	土工、法面工、調整池・排水工、道路工、供給処理施設工、施設舗装工等
	建物	700	支援物資保管庫、格納庫、給油施設
	消防学校	—	(消防学校に必要な機能や施設規模・配置は現在検討中)
STEP3	道路	—	(支援ゾーンの平常時の活用を踏まえ、改めて検討)
第3段階	造成	—	(支援ゾーンの平常時の活用を踏まえ、改めて検討)
小計		5,000	※ これまでの用地費は未計上

13. 平常時の利用検討

- 消防学校の施設は災害時に進出・救助活動拠点や活動拠点支援施設としての活用を想定。
- 第3段階に整備する支援ゾーンのベースキャンプ等について、今後、平常時の活用を検討する予定。



※消防学校に
必要な機能や
施設規模・配置
は現在検討中

14. 当面の主な検討事項

■ 早期の防災機能の効果発現

- 令和7年度中の先行整備工事の実施
- コアゾーン整備に向けた測量、調査等の実施

■ 消防学校の移転整備の具体化

- 消防学校に必要な機能や施設規模・配置の検討

■ 周辺環境への影響を与えないための調査・検討の実施

- 五條県有地内の測量、地質調査
- 五條県有地内の暗渠管の調査
- 流下能力を確認するための下流域の流路調査
- 整備により影響が懸念される周辺池の水質調査
- 周辺道路の測量および現地調査
- 東エリアへの進入路等の測量・調査・設計
- 東西エリアを結ぶ既設橋梁の点検

【参考】検討経緯

- 令和6年2月定例奈良県議会において、「令和6年度奈良県一般会計予算に対する修正案」が提出され、可決されたことにより、外部有識者で構成される災害応急対策(防災拠点)検討部会を設置し、大規模災害に備えた広域的な防災体制のあり方や広域防災拠点における災害応急対策等について議論
- 議論の結果を「奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想」としてとりまとめ、議会の議決を経て令和7年3月に策定
- 基本構想に基づき、南部中核拠点の機能、施設規模、配置計画等に関する基本的な考え方をとりまとめるとともに、その整備について具現化する整備基本計画を検討

■ 災害応急対策検討部会 構成員

部会長	河田 恵昭	関西大学 社会安全学部 特別任命教授
委員	菅 磨志保	関西大学 社会安全学部 准教授
委員	高橋 良和	京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 教授
委員	久 隆浩	近畿大学 総合社会学部環境・まちづくり系専攻 教授
委員	岡田 重人	九州大学グリーンテクノロジー 研究教育センター 特任教授
委員	伊藤 忠通	奈良県立大学 名誉教授
委員	能島 暢呂	岐阜大学 工学部社会基盤工学科 教授
委員	上野 明義	元陸上自衛隊中部方面航空隊長兼八尾駐屯地司令

■ 災害応急対策検討部会 開催経緯

(第1回 令和6年4月24日～第5回 令和6年11月12日)
奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想(案)について 等

第6回 令和7年1月30日
南部中核拠点整備基本計画 中間報告(案)について

第7回 令和7年5月26日
南部中核拠点整備基本計画(案)について